

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370102364		
法人名	社会福祉法人義風会		
事業所名	足守荘グループホーム		
所在地	岡山市北区下足守1898番地		
自己評価作成日	令和3年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和3年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人全体の理念である(生きがいの探求・生きがいの創造)を基本として、①利用者様が主体となるグループホーム②コミュニケーションに重点を置き心のケアに配慮したサービスを提供できるグループホーム。③利用者のニーズを把握し、個性を尊重でき、安心、安楽の生活の中で、笑顔を引き出すことの出来る、我が家のように思ってもらえるようなグループホームを目指しています。

医療の充実を図り、健康維持に力を入れています。歌を歌ったり、嚙下体操を行ったり、おいしく安全に食事が摂れるように工夫をされています。食事形態についても入居者の希望や状態に気を配りながら適切な提供ができるように努力されています。栽培した野菜を使った料理やおやつ作りは入居者もとても喜ばれ楽しみとなっています。管理者は職員がより働きやすい環境を整える為に、個人面談を定期的に取り入れています。限られた空間と職員数の中で円滑に業務が遂行するよう取り計らっており、職員と入居者が穏やかに生活できる環境に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 天いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「生きがいの創造・生きがいの探求」をもとに地域づくりの一端を担っている。職員が全員理念に基づいた働きが出来ているか、随時会議等で話し合い、確認し合っている。	入居者の生きがいを見出せるように生活の中で様子や表情に注意しながら支援しています。最近行った生け花で今まで知らなかった入居者の表情を見ることができ、今後の支援に繋げていく取り組みをされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の学生や、ボランティアとの交流を施設行事や喫茶・習字クラブを通じて行っている。外出では主にスーパーや喫茶に赴き、日常生活の一環としてふれあう機会を設けた。	ボランティアや地域での行事が中止となり、今は他事業所でカラオケを借りて歌を歌ったり、おやつ作りに取り組んだりしています。状況が良くなれば地域との繋がりを再開できるように連絡を取り、関係の継続に努められています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や地域住民・ボランティア・見学者への受け入れや、喫茶や習字クラブへの参加、グループ内行事を通じて、交流機会を設け認知症について知ってもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事計画や運営状況・評価結果を報告して意見を頂き、より良い施設作りに役立っている。会議開催時に利用者の様子や、一緒にレクに参加してもらう事で雰囲気や生活の様子も見てもらって助言を頂いている。	現在は事業所内部で行った会議の報告をしているが、今後は誕生日会やレクリエーションを同時に行い、家族も参加しやすい会議にできるように努力されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的な空き状況、運営状況などや評価の結果を報告し、意見を頂いている。それを職員間で共有し、反省やより良い施設づくりに役立っている。	感染症対策についての文書が郵送やメールで届き、事業所内で回覧しています。分からないことがあれば随時相談しながら取り組めるように協力関係を築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間での勉強会や随時の確認にて安全面に対して入居者個々に合った適切な対応が出来るよう取り組んでいる。コミュニケーションに重点を置き、身体面だけでなく心のケアに対しても配慮するように心がけ、家族への連絡や話し合いも行っている。	身体拘束についての内部研修を定期的に行っています。現在対象者はいないが、ミーティング時にはみんなで話し合い身体拘束をしない支援に取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を設け、不適切な対応や発言などお互いに確認し合い、指摘できるようにしている。虐待につながりかねない不適切なケアに繋がらないよう個々に気を付けている。又職員間で意見交換を行い、ストレス軽減に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について勉強会を行い、必要時しっかりと支援できるように知識や仕組みを身に付けていくよう心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の支援方法や医療連携体制、出来ること出来ないことを文書を用いながら具体的に分かり易く説明し、同意を得ている。利用者や家族の不安等、質問にもしっかりと説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回以上は家族と職員が連絡を取るようになり情報報告や家族の様子を尋ねている。面会時には家族の想いをしっかりと聴くようにしている。得た情報は職員全員で家族の希望や要望として認識し、サービスに反映させられるよう話し合っている。また利用者とのコミュニケーションを図り、意向を汲み取るよう努めている。	感染症対策の為窓越しでの面会をしています。中の様子がわからず不安に思っている家族に配慮し、様子が分かるような写真付きの手紙を出したり、100歳のお祝いの会の様子のビデオ撮影や、アルバムを作成したりと可能な限り要望に応じられています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時職員の意見が言いやすい雰囲気作り、最低でも月1回ホーム内ミーティングを開き個々の考えや要望も話せる機会を設けている。また意見や提案を得たら即時検討を行い、必要に応じて話し合っ運営に反映させている。	管理者は職員に対しての個人面談を導入し、より話しやすい環境作りをしています。その場で解決できないことは職員会議で提案や、施設長へ相談等、管理者が間に入ることで円滑に職員の意見が反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の長所や得意なことを認め、意欲的に業務に取り組めるような環境作りを行っている。一人ひとりの意向を確認しながら、資格取得への支援を行っていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は外部研修は人員不足によりほとんど参加できなかった。人員も増え来年度は積極的に研修に参加できるように努めたい。その分意見交換や勉強会で内部研修を積極的に行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業者との交流を持ち、意見交換などを行ってサービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用相談時には、本人・家族の意向を十分聴き生活状況や心身の状況、生活歴や趣味などを把握して安心して過ごせるように対応し早く慣れてもらえるよう関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用相談時には、本人・家族の意向や要望、不安に思っていることを十分に聴き取り、事業所として支援できることをお伝えして理解を頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者の状況や状態、意向を確認して希望するサービスの選択肢を提示し、必要であればケアマネや他事業所につなげるなどして対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言語的・非言語的コミュニケーションにより信頼関係を築き、安心できる関係づくりを行っている。職員も年長者に対しての尊敬の念を忘れず、逆にわからない事は尋ねるなど一方方向の関わりにならないよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支えられる一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時はもちろん定期的に近況を報告している。変化がある時にはその都度連絡を入れて、情報を共有し、提供するサービスに家族の意向を反映させられるよう努めている。家族との良好な関係を築き、利用者を共に支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	クラブや喫茶などを通じて馴染みある人や家族との交流、面会時間を持ち生活環境を大切にしている。施設における生活が我が家のように思ってもらえるように努めている。	現在外部からの支援は難しいが、電話連絡の際に入居者や職員の様子を気にかけて尋ねてくれる方もおり、良い関係が築けています。今後も継続した支援が受けられるように、関係が途切れないように努力されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や利用者同士の関係を職員全員で把握、ときには介入して、円滑な人間関係を保ち、楽しく穏やかに生活できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの生活状況、身体状況、習慣等の情報を提供して、新しい場所でも暮らしの継続性が断たれないように配慮している。また、本人、家族の許可を得て交流を継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図る中で、言葉として表出しない想いを汲み取るよう努力している。自己表現が困難な方の意向や想いも日々の援助の中で推察したり、随時家族の希望・要望を取り入れて利用者本位のサービス提供に努めている。	好きだけど(高齢化に伴い)できない、苦手だからやりたくない、できないと恥ずかしい等入居者個々の思いや意向の把握に努め、その方にとって何が最適であるか本人本位に検討できるよう努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を知ることは重要なことであることを職員全員が認識している。個人情報の保護に配慮して、本人、家族、知人の理解を得ながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一人一人の生活リズムや、心身の状況を把握し、出来る事出来ないことを見極め、その人らしく生活できることを大切に支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の変化にそって、随時家族に連絡・相談を行いより良い支援方法や計画に意向を反映させるよう努めている。3ヶ月に1回モニタリングは職員会議の場を使用して、職員全員で状況の変化等、意見交換を行って、プランの作成に活している。	家族には電話連絡などで状況を伝えており、本人の希望もくみ取りながら、毎月の会議で職員で意見を出し合い、入居者の現状に即した介護計画を作成できるように努められています。	家族との連携も図りながら関係者がチームとなってより良い支援ができる計画を作成していけることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り事項は口頭以外にも、夜勤帯・午前・午後・レクリエーションの様子や変化時の記録を残し、記録以外にも積極的に職員間でコミュニケーションを取り、全員が情報共有できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急性や家族の状況に即して臨機応変に受診や、その他送迎支援を行っている。希望があれば家族に対し移乗や排泄介助など基本的介護技術の方法を説明し、家族で外出が楽しめるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容、喫茶や習字ボランティアの協力を頂いている。運営推進会議で外出時のボランティアの参加の話も出ており、より地域との交流も深まるよう進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、家族や本人が希望する医療機関を受診して頂いている。受診時には職員が付き添い、以前からのかかりつけ医には家族の意向を聞きながら受診支援を行っている。日頃の状態や体調が把握できるよう記録をまとめている。	病院に受診する際に家族に来てもらうこともあるが、その際も職員が付き添い普段の様子などを伝え適切な医療が受けられるよう支援されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問介護ステーションと契約しており、健康相談や医療面の相談を行っている。助言及び対応をお願いしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、介護添書の他、連絡を取り合い情報交換を行っている。家族との連絡も密に取って共同しながらスムーズな入退院が出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を十分に確認し、事業所で実施できる援助内容について説明して、理解を頂き、医療機関との連携を図っている。終末期には看取りについて説明し、本人・家族の意向を伺い末期の計画書を作成、承諾を取っている。安心して最期を迎えられるよう支援している。随時、職員間でカンファレンスを行い、より良い方法を考えながらも職員間の不安や疑問の共有と解消・ストレスの軽減に努めている。	終末期には家族にも今後予測される状態変化を事前に知らせることで、不安の解消や心の準備ができるようにしています。感染対策の最中、併設事業所では制限を設けて最期の面会ができるように計らい看取りを行っており、ホームでも要望があれば可能な限り対応できるよう検討されていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置については昨年行っているが、今後も各職員で積極的に研修などに参加し、知識や技術の習得に努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内全体での消防防災計画に基づき、合同避難訓練への参加及びマニュアルを確認している。消火器の使い方や避難経路の確認整備を行い、緊急時に備えている。	施設全体の訓練だけでなく、事業所での避難経路の確認や見直しも随時行っています。備蓄の準備も進んでおり、災害時に安心して過ごせるように備えておられます。	今後地域との連携を図り、お互いが助け合える協力関係を築かれていくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への声かけや援助はその場面に合わせて、本人の意向やプライバシーを尊重して行っている。不適切な場合にはその都度、職員同士で話し合える環境を作っている。	職員それぞれが常に意識し、必要があれば互いに注意したり、その方にとって何が最善かを相談しながら、入居者の人格や誇りを損ねない対応を心がけていました。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの個性を大切にコミュニケーションがとれるように、要望や希望が言いやすいように工夫している。耳が遠い方には筆談を行うなど意思疎通がしっかりできるよう工夫している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活のリズムの中、個々の意向や習慣、体調などを考慮して、その人のペースで過ごせるよう支援している。利用者中心のペースで過ごせるよう配慮している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれ好みの服を着用している。ハンカチやひざ掛けなど小物類も自分の好きな物を使用している。清潔の保持のため、こまめに汚れを確認し洗濯や、季節に応じた衣類の入れ替えも支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に食器洗いや拭き等、出来る事を手伝ってもらっている。その都度感謝の言葉を伝え、達成感や喜びが感じられるよう配慮している。誕生日会では好みのメニューを作ったり、おやつ作りを実施することで食の楽しみを感じてもらっている。	栽培した野菜でのおかず作りや、お好み焼き、たこ焼きなどみんなで調理して食べることが入居者の楽しみになっています。出来ることを手伝ってもらい、その際には必ず感謝を言葉で伝えられるよう、心がけています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	①食事量・水分量の把握(記録) ②体調や食欲・嚥下の状況に応じて随時食事形態の変更を行っている。体調が良くなったり、本人の食べる意欲が向上した場合は普通食やパン食に変更した。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事のうがいや食事後の歯磨き以外にも、嚥下や身体状況に応じてマウススポンジなどを使用している。歯科訪問を利用し、希望のある方は定期的な口腔治療、ケアを利用している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムや排せつ物の状態を把握し、チェック表に記入し確認している。運動や食事・水分提供で対応が難しい場合には、主治医や看護師に相談して服薬などの対応を行っている。	個々にあった排泄リズムや尿取りパッドの検討を重ねています。本人の様子や気持ちに寄り添い良いタイミングで言葉かけが出来るように気を配り、できる限りトイレでの排泄ができるように支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表により職員が把握漏れの無いように各利用者の排泄状況を確認するとともに便秘時の個別対応を主治医から聞き、一覧にすることで適宜対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタル・体調を確認した上で安全に入浴できるようその人に応じた声かけを行っている。拒否のある人にも冷暖房の管理し、スムーズに入れるよう本人が入りたいと思うタイミングを見計らって声かけを工夫している。	同建物内の他事業所にある特殊浴も使用し、安全に入浴が楽しんでもらえるように配慮しています。曜日や時間の固定はしておらず、入居者の希望に沿った支援ができるように取り組んでおられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムの確立の為、グループホームの日中の過ごし方を決めている。体調等に応じ、休息が必要な人には取ってもらいながらレクや体操・散歩や趣味活動を提供しメリハリをつけて夜はゆっくり休めるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書をファイルし全員で確認できるようにしている。服薬時には誤薬が無いよう、名前や日付を読み上げ確実に服薬してもらっている。塗り薬や目薬は漏れないよう、チェック表で確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なこと・好きなことを把握して、日中に取り組み、楽しめる時間を設けている。食器洗いや食器拭き等家事の手伝いも個々に手伝いの意思を確認しながら行ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑好きな方のため野菜の栽培を行い水やりや草取り、収穫まで行ったことで外出の楽しみを設けた。また、施設外への散歩、買い物など施設内にとどまらず自由な雰囲気を感じてもらえるようにしている。	現在は感染症対策で外出は控えているが、職員の勤務調整や家族の協力も得て外出支援を行っていきたく考えています。現在は、ベランダで野菜を作っており暖かくなれば、入居者と一緒に水やりや外気浴を行う予定をたてておられました。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出などで個別にお金を支払い・おつりと品物を受け取る機会を設けている。一人での金銭管理が困難な方が多いため、本人の意向に応じて使用する際は、家族に確認・了承を得て物品を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節のお便りを出したり年賀状を自分で家族あてに出してもらおうよう支援している。希望に応じて電話も対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけ、居心地の良い空間づくりを行っている。空調・湿度管理に気を付け健康管理に努めている。季節ごとの装飾や、行事写真なども個室ごとに掲示し季節感を混じられるよう工夫している。	限られた空間の中で、閉塞感を少しでも緩和できるように、壁紙の色を明るい色にしたり、季節を感じられるような飾りや、入居者の写真を掲示して温かみのある生活空間となるよう工夫されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限りある空間の中で、本人の体調や気分に応じて配慮して安心してくつろげるように席の位置替えや、ソファーやリクライニングを使っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた自宅の物品を置いたり、写真や自分で作った作品を飾ったりと、安心してくつろげる部屋作りを行っている。	自宅で使用していた使い慣れた家具や布団、本等居室で心地よく過ごすための物を持ち込み使用しています。また、身体の状態に合わせて配置換えする際には、本人や家族にも伝えて安全に過ごせるように工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力や認識力に応じて、声かけを工夫し、自分で考え選択することを大切に支援を行っている。理解が難しい場合には安心して過ごせるよう職員が関わり、ドアに目印をしたりと徐々に環境に慣れてもらえるように工夫している。		